

Yの

世を去るし たんつと 大妻昔のことのようなきら
するな。また四年前の事。

特別浴び上り来たるような事件がちらりともた
はるが、ちらり日記帳を開くとみたら、これまた
実に平々凡々たるもの。所々拾い読みをしてみた。

築地の分列以前 十山内先生さまへ、元氣をどうつ
くすか。 ^{（借書）} 働いてみる。二月元旦から大晦り
まで芝居をやってみる。

知れこの年比較的芝居に出る世間をみる。旅行
北海道、九州と初めの地方を歩くと相當に忙し
ちよつと仕事のことを奮慨とみる。かたわら

もつと多く 夫婦喧嘩を聞いたことをくたぐ述べて
ある。余程と惜しめられたらしい。毎日書きたるを
しつと覚へてあるが、またこの年たつたんがら
でも日記帳の余白に「おらたちの花いぢんあ
歌詞を走り書きとあるぢんをば子飛あし

けんご暢気なつらんが。
矢張り昔はよめられたあといつて思ひ。

田村新子

ト